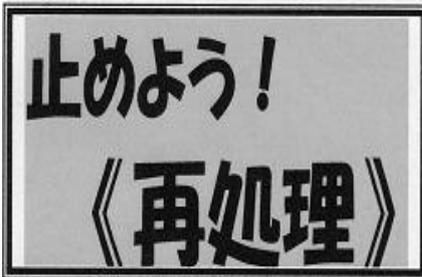


三陸の海を放射能から守る
岩手の会 (略称) **三陸の海・岩手の会**
 郵便振替 02240-5-102650
 ホームページ 《再処理／岩手の環境》
<http://sanriku.my.coocan.jp/>
 《本紙の全バックナンバー掲載》



《**天恵の海**》
 2016(平成28)年
 1月20日
 第160号
 編集事務局 S.Oshida
 TEL・FAX 019-623-1636

豊かな海を末代まで



宮城県気仙沼市 (旧唐桑町)
唐桑半島の初日の出
 撮影 菅野和夫

原子力緊急事態宣言 発令中! 今年こそ再処理から撤退の年に!

- ◇2011年3月11日以来 原子力緊急事態宣言発令中
 発令から5年目を迎えます。福島原発事故の収束は見通しが立たず約10万の人々が避難生活のままです。川内原発の再稼働は原発事故に学ぼうとしない愚かなことです。
- ◇『全国原発の稼働ゼロ』は 「通算2年と19日」で中断中
 2012年5月の泊原発停止による全国原発稼働ゼロ、から4年目になります。途中大飯原発・川内原発が再稼働されましたが、大部分の原発は停止中。電気は十分足りています。
- ◇核燃サイクルは撤退するしか道はない!
 もんじゅ事業主体の運転能力なし・変更勧告。六ヶ所再処理工場の22回目の完工延期。核燃サイクルには、既に12兆円の巨費を費やしています。本年こそ再処理撤退の年にしよう。

講演会

『再稼働で増える核のゴミ どうするその処分!』 県公会堂大ホール

講師 原子力資料情報室共同代表
伴 英幸さん

主催: 高レベル放射性廃棄物の
 最終処分を考える集会実行委員会



講師 伴 英幸さん
 原子力資料情報室
 共同代表兼事務局長
 総合資源エネルギー調査
 会原子力小委員会委員、
 放射性廃棄物ワーキン
 ググループ委員

これ以上核廃棄物を作らず
 処分場計画は白紙に戻せ!

原発は事故を起こせば地球規模の大災害をもたらす、事故を起こさなくても危険で厄介な核廃棄物を残します。十一月十四日盛岡市の岩手県公会堂大ホールにおいて高レベル放射性廃棄物の最終処分を考える集会在開催され約三百人が参集しました。集会では原子力資料情報室共同代表の伴英幸さんが『再稼働で増える核のゴミ、どうするその処分』と題し講演を行いました。

主催の実行委員会は、平和環境県センター、県生協連、県消団連、県労働組合連合会、県自治体労組連合、そして当三陸の海岩手の会など三十余の団体と市民グループです。岩手の地を放射能で汚染させないための、県民の総学習が始まりました。

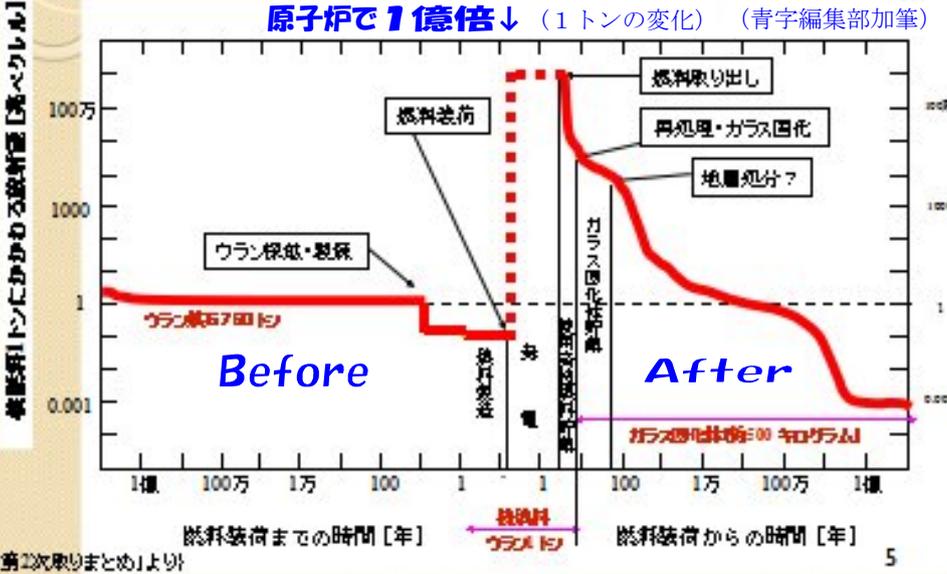
私は、二〇一三年に経産省管轄の「放射性廃棄物ワーキンググループ」に委嘱され審議に参加して来ました。「これ以上放射性廃棄物を増やさないこと」と「出来てしまった核のゴミは全国民納得のいく方法で処理することが大切と考え引き受けました。ガラス固化体だけが**高レベル廃棄物ではない**。日本では二〇〇〇年に「高レベル放射性廃棄物の地下三〇〇メートル以上の地層処分」が法律として成立し、「使用済み燃料はガラス固化体にして地層に埋設する」(注

集会ではまず、高レベル廃棄物とその地層処分についてテレビの特集番組を視聴し、さらに当会の永田文夫世話人から「高レベル廃棄物岩手県に関する動き」が報告されました。

伴英幸さんの講演について、その注目すべき点をまとめてみました。

ウラン燃料 トンの放射能の変化

原子炉で1億倍↓ (1トンの変化) (青字編集部加筆)



1) となつています。しかし、地層処分には、「ガラス固化体」だけではなく「使用済み核燃料」等が考えられています。原発で「燃やす」と放射能が一億倍になる

私は「これ以上放射性廃棄物を生み出さない」ということが議論の前提であると主張して、本原子力研究開発機構「

まず理解すべきは「原子力発電は膨大な放射能を生み出す」ということです。原発でウランを分裂させてしまうと、放射能量は燃やす前の、実に「一億倍」になります。それが左図の「ウラン燃料の放射能変化」です。これは「日

が作成したもので、核分裂させると、多量の放射性物質を作つてしまい、低減するまでに十万年以上の年月が必要です。地下処分に成功している国はまだない。

起の動きの大きな地層、活断層付近、そして地下水の湧くところなどを「不適当な地域」と判断すると提示しました。ところが経産省は全国約一七〇〇自治体に「連絡窓口係」を作らせたとい

戻りが出来ない危険があります。だから現在の計画は白紙に戻し、作業を開始しないことです。そしてその確認の上で、全国的議論を行い納得出来る方針を探し出すことだと思ひます。(まとめ・尚)

「地球科学的適地」はあるのか？
国は「ガラス固化体地層処分場」の候補地を探すと、二〇〇二年以来NUMOという組織を作つて全国自治体に希望を募つていました。しかし、二〇一一年の福島原発事故以来国民は核廃棄物の危険な実態に気がつき、公募は絶望的になりました。そのため二〇一四年から「地球科学的な観点」から適地を探し国から要請する方式も採用することになりました。

「私達の世代の責任」が言われています。しかしそれは正しい答を出すことであり熟慮が必要

私は先ず第一にこれ以上核のゴミを出さないこと、すなわち原発を止めることだと思ひます。第二に地層処分には後

編集部注
(注1) 「特定放射性廃棄物の最終処分に関する法律」第一条(目的)には「使用済み燃料の再処理等を行った後に生ずる特定放射性廃棄物の最終処分を実施させる」と記されています。
(注2) フィンランドでは「使用済み核燃料」の地層への直接処分計画です。

結成十周年記念誌

止めよう！再処理「天恵の海」抜粋版を刊行

アクティブ試験が始まった二〇〇五年以来発行してきた「天恵の海」全一五九号から、再処理関連号を収録しました。

A4版 178ページ
実費頒価1000円+送料(300円)
注文は 氏名、住所、電話番号を明記の上
下記へ (日野岳：専立寺)
FAX 019-621-3085
E-mail yuisyo@coast.ocn.ne.jp

講演会「原子力政策、日本の取るべき道」

講師 原子力発電技術専門家
アーニー・ガンダーセンさん

日時 **2月13日(土) 13:30~16:30**
場所 **岩手大学学生センターA棟G1大講堂**
参加費 一般500円 大学生 高校生 無料

主催 三陸の海・岩手の会
後援 原発からの早期撤退を求める岩手県学識者の会